

県中体連総合大会激励会 校長あいさつ

平成29年7月19日（水）

バレーボール部の皆さん、22年ぶりの県大会出場おめでとうございます。

県大会初戦を4日後に控え、皆さんの胸中には、期待と緊張、そして一抹の不安があるのではないかと察しております。

以前の激励会でも話したように、「試合では、練習でやってきたことしか出せない」と私は思っています。練習という準備を、与えられた環境と限られた時間の中で、いかに充実したものにできるかが勝敗を左右します。そこで最も大切なことは、誰かにやらされる練習ではなく、自分たちで考え、自分たちで工夫しながら取り組む、主体的な練習にすることです。都路中学校では、「主体的・対話的で深い学び」を君たちに保証できるような授業を目指しています。「主体的・対話的で深い学び」は、授業のみならず、部活動においても大切なことです。バレーボール部の皆さんが、試合の直前まで、主体的・対話的で深い学びがあるような練習ができることが大切です。

そして、もう一つ、試合に臨むに当たって大切なことは、メンタル（心）です。メンタルもトレーニングをすれば、試合で結果を残すことができるということは、もはや常識となっています。都路中の部活動にも、メンタルトレーニングを取り入れてみるのもよいのではないかと考えています。バレーボール部の皆さんが、専門的なメンタルトレーニングを今からやるのは無理ですから、少なくとも「自分のプレー、自分たちのプレーをして、それで勝てないのなら仕方がない」と開き直るくらいの覚悟で、試合に臨んでみてください。また、「勝ちたい」と思うのではなく、「絶対に負けない」という気持ちで戦ってみてください。

都路中学校では、部活動を通じて、バレーボールや野球や卓球がうまいだけの生徒を育てるつもりはありません。コートやグラウンドや卓球台を離れても、志をもち、自ら学び考え、豊かな心をもった生徒を育てることが、都路中学校の目標です。

県大会という大きな舞台に立てるバレーボールの皆さんが、選手として、また都路中学校の生徒として、一回りも二回りも、それ以上にも成長できることを期待しています。

健闘を祈ります。